

# 新聞は「安倍政治」をどう伝えているか

～ 2019 年ニュース報道の比較研究～

梶 山 卓 司

## How Japanese Newspapers Report The Abe Administration: A Comparative Analysis of Newspaper Coverage in 2019.

Takuji KAJIYAMA

### 要 旨

本稿は、最近の新聞報道について、ニュースの扱いや伝え方の違いを比較検証する第3弾である。2017年は衆院選挙報道を、2018年は安倍首相の自民総裁3選や沖縄報道、核報道などをテーマに検証した。今回は、歴代最長記録を更新中の安倍政権、安倍政治の報道に絞り、各紙を読み比べた。

すでに顕著化している「朝日・毎日」vs「読売・産経」という対極化した新聞の論調をより明確に浮かび上がらせるには、今の「安倍政治」報道に焦点を当てるのが最善と踏んだからである。結果はその通りであった。本筋のニュース報道はもちろん、ゴルフや外遊への出発時の報道など小さなニュースであっても、各紙の扱い方、伝え方が微妙に異なっていた。

また今回は、各紙が実施する世論調査の結果報道も比較した。調査結果を掲載するにあたって、それぞれどこに的を絞って報道しているのか、違いをみる狙いである。さらに、各紙の世論調査結果と日々のニュース報道のスタンスを照らし合わせることで、何がしかの関連性は見えてこないか。そんな大胆な仮説を押し立てての一考察である。ただ、今もって推論の域を出ていないことをお断りしておく。

キーワード：ニュース報道、安倍政治、世論調査報道

## 1. はじめに

日本の新聞報道の比較については、本学の「言語文化研究」の中で2度取り上げ、考察した。国政選挙、沖縄報道、安全保障など主要なテーマを読み比べると、現在の日本の新聞論調は「朝日・毎日・地方紙」vs「読売・産経」という構図が定着し、その中間あたりに日経が位置する、と分析した。今回もその観点に立ち、主にこの1年間（2019年）に及ぶ「安倍政治」をめぐる報道に絞ってニュースの取り上げ方や伝え方の違いを検証した。

題材にしたのは、相次ぐ閣僚の辞任や英語民間試験の先送り、「桜を見る会」問題といった政治ニュースのほか、安倍首相の外遊、趣味のゴルフ、トランプ米大統領との親密ぶりといった話題までである。いずれも読み比べると、伝え方が微妙に違っているのが分かる。同じニュースを取材し、報道するにしても、最終的にそれぞれ主観が入り、見出しや記事の書き方などが異なっているのである。

こうした傾向を、各紙の世論調査結果と照合する形で検証した。すると、報道スタンスや論調の違いと、安倍内閣への支持・不支持の動向が重なっているように見えてくる。「安倍政治」への各紙の評価が有権者の政治意識などに少なからぬ影響しているのではないか。そんな推論を抱かせるような内容である。

例えば、安倍政権寄りの報道や論調が目立つ読売の世論調査では、安倍内閣支持率が他紙に比べて高い。逆に「安倍政治」に批判的な朝日や毎日、神戸（共同通信）の世論調査では概ね支持率が低い結果となっている。

不特定多数の有権者を対象にした調査であるため、各紙の論調と、安倍内閣の支持度がリンクするかどうかは、より綿密な調査・分析が必要となる。その認識を持った上で、「安倍政治」をめぐる2019年の主なニュース報道と世論調査結果を取り上げ、各新聞の色合いと世論の動向を比較検証する。

読み比べたのは例年同様、朝日、読売、毎日、産経、日経の全国紙5紙と、地元紙の神戸新聞である。いずれも大阪・神戸発行の紙面を基にした。

## 2. 安倍内閣

史上最長政権を更新中の安倍首相にとり、2019年10月の内閣改造以降は経済産業相、法務相の主要2閣僚が不祥事で辞任に追い込まれるなど出はなから黄信号がともった。さらに、安倍首相の側近といわれる萩生田文科相が英語の民間試験導入をめぐる格差容認と受け取れるような「身の丈」発言を行ったことで不信が一気に渦巻いた。政府は急きょ、英語民間試験の導入（2020年度）を中止すると発表したが、盤石なはずの安倍改造内閣が早くもほころびを露呈する形となった。この一連の動きを各紙はどう報じたか、を見ていきたい。

2閣僚の辞任（更迭）報道は各紙とも「当然」という論調にほぼ変わりなかった。安倍首相の任命責任をめぐる、各紙のスタンスが違った程度である。ところが、萩生田文科相の「身の丈発言」に関しては各紙の伝え方が異なっている。具体的にどこが、どのように違うか。文科相の「身の丈」発言から英語試験導入の中止発表まで各紙の報道内容を比べてみる。

### 2-1 「身の丈発言」問題

萩生田文科相は、民放のBS番組の中で英語民間試験における不公平問題に関して問われ「身の丈に合わせて勝負を」と発言した（10月27日）。この発言をとらえて、翌28日朝刊で伝えたのは毎日新聞である。

第2社会面のカタ扱い（第2トップ級）で、「英語民間試験『身の丈に合わせて勝負を』」「文科相発言 格差容認?」「『財力次第か』批判続出」「野党、国会追及へ」と、報じたのである。

これを受け、一部新聞が翌29日朝刊で報道した。

- ・朝日 社会面トップ『『格差容認』怒りの声』『『説明不足』謝罪 撤回はせず』
- ・読売 4面カタ「萩生田氏『身の丈』発言謝罪」「説明不足だった」
- ・産経 5面ベタ「国会ほぼ正常化も文科相発言で混乱」

朝日、読売、産経の3紙の見出しから、「身の丈発言」に対する各紙の姿勢が読み取れる。朝日は毎日同様、発言は格差を容認するものだと読者に訴える見出しを掲げたのに対し、読売と産経は「身の丈発言」があったと伝えてはいるものの、あくまでも萩生田氏の謝罪と釈明を伝える形で報道している。

「身の丈発言」報道は、こうした各紙のスタンスの違いを維持したまま、11月1日の「英語民間試験見送り」発表まで続いていく。

萩生田文科相が発言を撤回し、「英語民間試験見送り」を発表した11月1日夕刊と翌2日朝刊の各紙紙面を見る。

・11月1日夕刊

●朝日

1面「文科相『自信持てぬ』」「24年度実施めざす」「世論の反発 官邸が懸念」  
「受験予定だった高2『変更ばかり、混乱』」

●読売

1面「24年度に新制度」「文科相が表明」  
1社「高校生『なぜ今になって』」「『負担減る』地方は歓迎」

●毎日

1面「『全体的に不備があると認めざるを得ない』」「英語民間試験延期」「24年度にも新制度」「『ふざけるの大概にしろ』」「高校生ら書き込み」

●産経

1面「文科相発表 6年度以降に」  
1社「保護者『まずはほっとした』」「歓迎と戸惑い」

●日経

1面カタ「文科相『抜本的に見直す』」  
1社カタ「高校・大学『迷走で混乱』」「受験生『安心した』の声も」

●神戸

1面「24年度めどに新制度」「野党、文科相迫及へ」  
2社「導入延期『ほっとした』」「『既に対策 非常に残念』県内関係者」

日経を除いて、各紙とも1面トップで見送り決定をほぼ同じような内容で報道した。ただ、1面本記を受けた各紙のサイド記事では、高校生や保護者の声を紹介しながら朝日と毎日は文科相に終始厳しく、読売と産経、日経、神戸は「ほっとした」などという声も紹介している。

これが、翌朝刊では各紙はどう報じたか。

・11月2日朝刊

●朝日

1面『身の丈』発言 格差露呈」 視点「受験生不在の政治判断」

2面（時時刻刻）「見送り 世論おそれ」「閣僚辞任続き与党『風圧に耐えられない』」「課題 以前から現場が指摘」

●読売

1面「是非含め再検討」「新制度24年度目標」

3面『深手』回避 官邸動く」「入試改革つまずく」「『身の丈』発言で不備露呈」「試験団体『丸投げ無理あった』」

●毎日

1面「英語民間試験延期『調整不足』」「英語 抜本的見直し」

3面「身の丈発言 火消し優先」「官邸 文科省押し切る」「民間任せ格差に甘く」「宙に浮く先行投資」「実施団体『補償は？』」

●産経

1面「文科相、延期を表明」「実施5か月前に転換、混乱」

2面カタ「民間試験導入疑問の声」「英語 一転見送り」「都市部に会場偏在／異なる団体で成績比較」「甘さ原因」「反省を」

●日経

1面（3段）「英語新試験、24年度から」「文科省、民間活用は白紙」

2面「見切り発車で混乱拡大」「実施5か月前に急転」

●神戸

1面「文科省 活用中止も選択肢」

2面『格差』に批判 官邸見切り』『身の丈』発言がとどめ」「野党、文科相の不信任案視野』『失言 直接原因ではない』萩生田氏」「大学関係者困惑『政治的すぎる』」

朝日は1面から2面にかけて文科相・省の不手際を厳しく糾弾する報道であ

る。毎日は3面で「官邸が世論の反発を恐れて押し切った」と、見送り決定は多分に政治決断がもたらしたと伝えた。この点、読売も同様に3面で「深手回避 官邸動く」、神戸・日経も「官邸見切り発車」とした。絶大な権力を持つようになった官邸が世論の反発の声に押され、文科省を差し置いて決定を下したとの内幕を伝えている。一方、産経は他紙ほど厳しい論調は見られず、見出しに「甘さ露呈 反省を」と取る程度だった。

同日の各紙の社説は以下の通りである。それぞれ国・政府の姿勢を問う論調が続いている。(1行目は見出し、\*印「」内は社説の文言から)

<社説>

- 朝日 「民間試験延期」「入試の見直し根底から」
  - \* 「見送りの結論は妥当だ」「むしろ、決断は遅すぎた」「(身の丈発言が)混乱を拡大させた責任は重い」
- 読売 「英語新入試延期」「受験生を翻弄し責任は重い」
  - \* 「失態と批判されても仕方ない」「(入試改革の)方向性は間違っていない」
- 毎日 「英語民間試験の延期」「遅すぎた判断の罪は重い」
- 産経 「民間試験の見送り」「英語政策全体の見直しを」
  - \* 「決定が遅すぎたことはお粗末極まりない」「以前から指摘されてきたこと」「英語教育の方向性にも疑問がある」
- 日経 「英語試験延期が問う行政の失態」
  - \* 「教育行政の失態は目を覆うばかりだ」「政権への批判をかわすための、その場しのぎの先送りであってはならない」
- 神戸 「民間試験見送り」「丸投げの是非を再考せよ」

「身の丈」問題は、さらに国会衆参予算委員会の集中審議で過熱する。そのやりとりを伝える各紙の続報はどうだったか。11月6日の集中審議を受けた翌7日朝刊の紙面を読み比べると、この問題に対する各紙の向き合い方が読みとれる。

●朝日

- 1面（3段）「英語試験の議事録公開へ」「衆院予算委 萩生田文科相が表明」  
2面（時時刻刻）「民間試験広がる追及」「『決定の過程不透明』」「記述式採点  
質は？」「閣僚辞任 首相は従来答弁」「記述式中止法案 立憲が提出方針」  
関連「加計関連文書『あなたが作ったのでは』」「首相、野党議員にヤジ」  
4面カタ「予算委採録」「『身の丈発言』辞任は 無所属・今井氏」「私の責任  
で作り直す 萩生田文科相」「『安定』損なわれた 国民・渡辺氏」「身を引  
き締め臨みたい 首相」

社説「首相国会答弁」「『任命責任』は口だけか」

●読売

- 1面カタ下（3段）「2閣僚辞任『責任を痛感』」「衆院予算委」「首相 集中審  
議で陳謝」  
4面トップ「首相、閣僚辞任沈静化図る」「野党、萩生田氏の責任追及」  
12面「英語試験延期大きな混乱 大串氏」「受験生挑戦しやすく 萩生田氏」

●毎日

- 1面トップ「英語民間試験議事公開へ」「有識者会議」「文科相『検証必要』」  
2面（焦点）「導入『ブラックボックス』」「英語試験 野党が追及」「任命責任  
首相かわす」  
5面トップ「与党、国会遅れ挽回躍起」「相次ぐ閣僚辞任で日程窮屈」「貿易、  
改憲に支障」（3段）「首相ヤジで審議中断 予算委」

社説「集中審議の首相答弁」「説明責任果たしていない」

●産経

- 2面（3段）「首相、2閣僚辞任で陳謝」「衆院予算委」「萩生田文科相は続投」  
5面トップ「共通テスト追及 次は『国語』」「野党、首相側近の萩生田氏標的」  
ベタ「閣僚席からのヤジ 委員長『慎んで』」

●日経

- 4面「国・数の記述式 予定通り実施」「共通テストで萩生田氏」「英語試験『議  
事録を公開』」

## ●神戸

- 1面カタ「英語入試の格差解消検討」「首相、文科相の罷免は拒否 衆院予算委」
- 2面受け「新入試制度 懸念消えず」「『記述式採点にバイト』野党指摘」「閣僚辞任 首相は逃げの答弁」ベタ「記述式中止法案 立民など提出へ」

この日のニュースの扱い、見出しのつけ方だけとっても、各紙の違いは明らかである。朝日、毎日、神戸は1面、2面、社会面などで首相や文科相に対し「首相は従来答弁」「任命責任 首相かわす」「首相は逃げの答弁」などと大きな見出しで読者に訴えているのに対し、読売は1面3段扱いで「首相 集中審議で陳謝」、産経は2面3段扱いで「首相 2閣僚辞任で陳謝」とし「萩生田文科相は続投」と報道した。

朝日や毎日の追及型報道に対し、読売、産経は首相や文科相の言い分を伝える内容に終始している。どちらを向いて記事を書いているのかと、問われかねない報道である。政府の姿勢をそのまま伝えるのも報道ではあろうが、「問題はこれで終わり」との印象を読者に与えないだろうか。

### 2-2 「桜を見る会」問題

11月8日の参院予算委員会で野党議員が毎年恒例の「桜を見る会」の招待者と経費の増加について質問した。双方とも増加傾向は安倍政権以降に目立ち、2019年の招待者数は1万8,200人に上った。5年前より約4,500人増えているという。同時に「桜を見る会」にかかる公費も増え、2020年度は19年度の3倍超の予算約5,700万円を求めている。なぜ急増したのか。野党議員の追及では、招待者の中に安倍首相の後援会関係者や知人が多く、招待者数、経費とも毎年増え続けているとした。

野党は、公的行事の「私物化」と反発し、与野党の攻防はエスカレートしている。そしてここでもまた安倍首相は突如、来年の開催を取りやめ、招待者基準を見直すと発表した。世論の反発を意識しての決断である。

まずは、11月8日の参院予算委で野党議員が質問し、政府側が答えた審議の



模様を各紙はどう報じたかを比較する。翌9日朝刊の紙面である。

- 朝日「首相主催『桜を見る会』『親睦に利用』野党が批判」
- 読売 報道なし
- 毎日「桜を見る会『後援会優遇』指摘」「各界功労者を招待」「首相『関与していない』」
- 産経 報道なし
- 日経『『桜を見る会』支出増を批判 共産』
- 神戸 報道なし

この日の参院予算委での質疑は英語民間試験問題に集中し、各紙とも萩生田文科相の姿勢を追及する報道がメインとなった。その中で「桜を見る会」をめぐるやりとりを伝えたのは、朝日と毎日、日経だった。読売と産経、神戸は取り上げていない。しかし、招待者をめぐる疑惑が一気に高まり、政府が招待基準見直しと2020年の開催中止を発表すると、どの新聞も無視できない状況になった。

9日以降の紙面を見ると、それが分かる。12、13日朝刊から。

- 朝日
  - ・12日朝刊
    - 4面トップ（7段）『『桜を見る会』強まる追及』「首相主催 公費支出も参加者も増加傾向」「野党結束『説明を』」「首相、招待関与否定」
    - \* 識者「公費の扱い情報公開を」
  - ・13日朝刊
    - 1面トップ「首相事務所ツアー案内」「桜を見る会 地元対象に」「首相、取りまとめ否定答弁」「招待者基準見直し検討へ」
    - 2面（時時刻刻）「桜を見る会一体ツアー」「コース選択 首相夫妻と夕食会すんなり入場」「議員らブログ削除」『『首相枠では』追及』
    - \* 識者「公費支出の行事 寄付行為の恐れ」
- 社説「桜を見る会」「首相の私物化許されぬ」

## ●読売

### ・12日朝刊

4面右下（2段）「桜を見る会 私物化批判」「野党『首相後援会を多数招待』」  
\*本記末尾に、菅長官の「問題はない」の談話あり。

### ・13日朝刊

2面（2段）「招待者基準明確化へ」「桜を見る会」「官房長官が表明」  
4面（3段）「野党なお追及の構え」「チーム初会合『着々と解明する』」

## ●毎日

### ・12日朝刊

5面トップ（4段）「『桜を見る会』右肩上がり」「支出は倍、参加者1.3倍」「第2次安倍政権」「野党『後援会優遇』追及」（3段）「石破氏『党役職時、枠があった』」

### ・13日朝刊

1面カタ（3段）「桜を見る会 参加者縮小」「政府検討」「招待基準を明確化」  
5面「政府『直後に名簿廃棄』」「続く釈明 野党反発」「招待枠 二階氏『問題ない』」「地元配慮するのは当然」

社説「『桜を見る会』の支出増」「公金私物化の疑問が募る」

## ●産経

### ・12日朝刊

5面ベタ「首相『桜を見る会』野党が追及チーム」  
\*記事中に菅長官「幅広く招待している」の談話あり。

### ・13日朝刊

2面（2段）「首相主催『桜を見る会』」「招待基準見直し検討」  
5面「『見る会』追及チーム始動」「野党、晩秋の桜国会猛攻」「旧民主党政権実施も『返り血』覚悟」「二階氏、後援会配慮は『当然』」

## ●日経

### ・12日朝刊

4面ベタ「『桜を見る会』追及チーム」「野党が設置」

関連ベタ『『実態に即し予算を要求』官房長官』

・13日朝刊

4面トップ（6段）『『桜を見る会』野党が照準』「首相後援会への便宜 有無を追及」「菅氏『招待基準見直し検討』」

●神戸

・12日朝刊

3面トップ（3段）「桜見る会『首相が私物化』」「野党、追及チーム設置へ」「後援会員多数招待」ベタ『『省庁の意見踏まえ招待』菅氏』

・13日朝刊

2面『『桜見る会』招待基準見直し』「政府検討『首相私物化』批判で」「野党『利益誘導』と攻勢」「公費急増も問題視」「二階氏 後援会招待に『配慮は当然』」  
「世耕氏ホームページから写真削除」『『首相事務所がツアー募集』後援会関係者』

各紙がこの問題を、どの面でどんな大ききで伝えているかを見比べても、違いは一目瞭然である。朝日、毎日、日経、神戸は1面ないし4～5面のトップで扱ったのに対し、読売と産経は2段かベタの目立たない扱いである。読売と産経両紙はこの段階でも「さして問題視するようなニュースではない」との判断だったのだらうと思われる。だが、政府が一転、2020年の開催中止を発表すると、両紙も他紙とほぼ同じような扱いになってくる。

14日以降の紙面から、その変容ぶりを見る。

●朝日

・14日朝刊

1面トップ（4段）「桜を見る会 来年は中止」「首相へ推薦依頼認める」「招待基準見直しへ」

2面（時時刻刻）「首相批判回避へ急転」「桜を見る会中止『こうするしか』」  
「招待 首相が突出と指摘も」  
「野党、関与否定の答弁に照準」  
「首相主催で税金を使い、各界の代表者を招いて開かれる」

4面カタ「官邸・与党の推薦『慣例』」「『桜を見る会』めぐり菅長官」

1社カタ（3段）「サービス過剰」「説明を」「参加者からも疑問」

・14日夕刊

2社ベタ「『桜を見る会』廃止は考えず」「菅官房長官」

・15日朝刊

3面カタ「桜を見る会『名簿、遅滞なく廃棄』」「問われる公文書管理」「夕食会『会費5000円』」「野党追及 菅氏は反論」

・15日夕刊

1面下「桜見る会 首相『国会求めれば説明』」

・16日朝刊

1面カタ（3段）「夕食会『参加者の負担』」「首相、違法性を否定」

2面（時時刻刻）「桜を見る会 収拾図る首相」「異例の取材対応 招待者の増加『反省』」「国会での説明は確約せず」「証拠示さず否定 野党反発」

\*前文「今後、首相が国会での説明責任を果たすかどうか問われる」

関連（2段）「招待名簿 廃棄根拠に疑義」「NPO『規定の適用前』」

4面トップ「桜を見る会 世耕氏、官邸HPに」「『招待枠』発言の動画」「公金私物化『私的踏まえ見直し』」「立食での食事用意『通常、来場者の7割』」「菅氏、政治家パーティー巡り」

## ●読売

・14日朝刊

1面カタ下（3段）「桜を見る会中止」「来年度 政府、招待基準見直し」

2面カタ「中止決断 政権の打撃回避」「野党『会を私物化』追及」（2段）「首相支援者に参加募る」「地元事務所名で文書送付」

・14日夕刊

1面コラム「よみうり寸評」

\*「公私混同との批判が出るのも無理はない」

・15日朝刊

4面（3段）「桜を見る会『廃止しない』官房長官」

• 16日朝刊

1面カタ下(3段)「首相、後援会の収支否定」「前夜祭」「野党は集中審議要求」

4面トップ「首相 早期幕引きを図る」「異例の説明」「『参加者が全額負担』強調」

\* 前文「問題の早期幕引きを図る狙いがあると見られる」

● 毎日

• 14日朝刊

1面トップ(4段)「首相、桜を見る会中止」「来春 私物化批判で」(3段)「政府、

国会に過少予算案」「参加者増見込み入札公告」(3段)「首相事務所名ツアー」

「地元有権者らに案内状」

3面「首相直撃に即断」「見直しでは収拾困難」「酒食費『1人1200円』、記念品  
に升…」「地元支援者『等』枠で招待」

\* 識者「法的責任問にくい」

5面トップ「野党『首相が非認めた』」「予算委開催迫る」

1社トップ「『桜』招待枠 閣僚10～40人」「議員は4人 事務所間で融通」「菅

氏『慣行だった』」「何が問題」「おごり」「首相地元」「官邸動画で『枠』発言」

「世耕氏 地元の支援団体参加」

• 15日朝刊

1面コラム「余禄」

\* 長期化する安倍政権の慢心、おごりと批判。

5面(3段)「野党、追及チーム3倍に」「前夜祭など照準」

1社「収支報告 違いなぜ」「『桜を見る会』前夜祭 不記載」「首相後援会朝

食会 記載」「名簿廃棄は5月」「国会質問で資料請求」「『地元帰れずサービ

ス』後援会関係者」

• 16日朝刊

2面(3段)「首相、違法性を否定」「桜を見る会ツアー『参加者が全額負担』」

5面トップ「首相、火消しに躍起」「取材対応2回」「前夜祭5000円『ホテルが

勘案』」「首相『毎年利用』」

\* 前文「自身を直撃する問題でその言葉が自分に跳ね返ってきた」

●産経

・14日朝刊

1面（3段）「桜を見る会 来年度中止」「首相判断、予算・人数見直し」  
5面（2段）「桜を見る会『疑惑さらに』」「野党、首相追及姿勢強める」  
記者コラム「しらじらしい桜を見る会騒ぎ」

＊追及する野党側の姿勢を批判。

・15日朝刊

5面（3段）『『桜を見る会』追及強化』「野党、3倍規模の『本部』」「首相、菅氏の進言受け即断 政権への打撃懸念」

・16日朝刊

2面（2段）「首相『人数増え反省』」「改めて基準など見直し」  
5面（2段）「野党、首相説明に反発」「審議拒否も示唆」「桜を見る会 首相説明要旨」

●日経

・14日朝刊

1面（3段）「桜を見る会中止」「来年、首相『私の判断』」  
コラム「春秋」＊長期政権のゆるみ、おごりを批判  
4面カタ「政権、『問題』幕引き素早く」「傷口の拡大回避狙う」

・15日朝刊

2面（7段）「桜を見る会 野党追及続く」「支持率への影響注視」「政府『廃止考えず』」

・16日朝刊

4面カタ（5段）「首相『後援会支えない』」「異例の21分説明」「出席者増は反省」「野党反発か『不意打ち会見』」

●神戸

・14日朝刊

1面トップ（4段）「桜を見る会 来年中止」「首相、私物化批判受け判断」「首相事務所 招待者選定に関与」

2面「首相 追及耐え切れず」「野党『私物化認めたも同然』」「『参加者は安倍事務所まで連絡を』後援会関係者あての案内文」「航空券手配、ホテル希望も確認」

\* 識者「税金を使った有権者へのサービス」「前日の夕食会 公選法違反の可能性」

• 14日夕刊

2社カタ「『桜見る会』投稿削除相次ぐ」「国会議員、手法地元県議のブログなど」「野党の問題追及後に」「菅氏『廃止は考えず』」

• 15日朝刊

2面「前日夕食会費 野党追及へ」「首相後援会開催『5千円、安すぎる』」

4面カタ（半分）「予算過少要求が常態化」「内閣府『不足分、他経費から融通』」「招待客名簿『5月に廃棄』」「政府、共産議員の資料要求当日」「飲食受注、7年連続同一企業」「私の後援会の方もご参加」「西村経済再生相ツイート削除」

• 15日夕刊

1面カタ「首相『国会が決めれば説明』」「夕食会費、事務所対応」

• 16日朝刊

1面トップ「首相『費用は参加者負担』」「地元招待 違法性を否定」

4面カタ「首相自ら21分 異例説明」「楽観一転、批判拡大に焦り」

\* 前文「危機感が募り、早期の幕引きを図った」

ベタ「『幅広い方々を事務所で推薦』西村担当相」

この問題を連日大きく取り上げたのは、朝日と毎日、神戸である。一方、上記3紙と分量の差があるとはいえ、読売、産経とも政府が開催中止を発表した翌14日朝刊から大きく報道し始めた。ただ、朝毎2紙が追及報道をより強めていくのに対し、読売と産経は依然、政府側の釈明と野党の動きを伝える報道に終始している。

なかでも産経については14日朝刊の記者コラム「しらじらしい桜を見る会騒

ぎ」の見出しを見てもわかる通り、追及するのは安倍首相ではなく、旧民主党勢力を中心とした野党側の姿勢である。いつもながらの論調である。国民の税金が安倍首相後援会や親しい友人のために使われたのではないか、また公選法違反の疑いは？といった疑義が持ち上がっていることにも背を向けた内容である。それを「旧民主党政権でもやっていたではないか」と同一視する。こうした論調に賛同する読者もいるかもしれないが、問題の本質をわきにそらし、「安倍政治問題なし」と主張していると取られても仕方ない。

各紙とも、2020年の開催中止を決めた政府の姿勢について、社説で以下のよう論じている。

<各紙社説>（1行目は見出し、\*印「」内は社説の文言から）

- 朝日（15日）「桜を見る会中止」「首相自ら疑問に答えよ」
    - \*「安倍政権下での実態を、徹底的に解明すること」「（首相の）監督責任はまぬかれない」「首相自身の口からきちんと説明すべきだ」
  - 読売（14日）「桜を見る会中止」「疑念の払しょくへ政府は襟を正せ」
    - \*「安倍内閣の下で、（見る会の）規模は拡大してきた」「長期政権ゆえの緩みが背景にあるのではないか」「首相は自らを律し、政権運営に当たるべきだ」
  - 毎日（15日）『「桜を見る会」と首相「中止するより実態説明を」
    - \*「会の趣旨自体に疑義をさしはさむつもりはない」「問題は安倍後援会の突出ぶりだ」「問われているのは首相自身の節度と説明責任だ」
  - 産経（15日）「桜を見る会中止」「反省しあるべき姿見直せ」
    - \*「不透明さは否めなかった」「あるべき姿を取り戻して再開すればよい」「桜の問題に早急にけりをつけ、山積する課題に当たってほしい」
  - 日経（15日）『「桜見る会」公私混同を排せ」
    - \*「政権や与党の幹部による推薦枠が慣例化している」「事実をきちんと説明する責任がある」
  - 神戸（14日）「桜を見る会」「やましいことがないならば」
- 各紙とも批判の程度に差異はあっても、今回の問題と政府の姿勢を批判して



いる。ただ、内容を読み比べると、読売と産経はあくまでも「反省して政権運営に当たれ」という叱咤激励型で、朝日、毎日、日経、神戸は「首相自ら答えよ」などと首相の説明責任を求めている。「安倍政治」をめぐる各紙の報道スタンスの違いである。

この問題に対して、与野党の攻防はさらに続くと思われる。政府側の答弁のあいまいさが依然続くなか、各紙は今後どう報道していくのかが注目される。

ちなみに、問題の発端となった2019年4月に開かれた「桜を見る会」の新聞報道はどうだったか。4月13日の紙面をみると、朝日と日経は取り上げていなかった。それ以外の新聞は夕刊で、読売と産経は夕刊に続いて翌朝刊でも報道した。小さな記事ではあるが、扱い方や見出しから違いがうかがえる。

#### ●読売

- ・13日夕刊

2面ベタ「首相 桜を見る会」「平成 名残の句も」

- ・14日朝刊

4面（2段）「花咲き誇る令和に」「首相 桜を見る会」

\*夕刊と同様、うれしそうな表情の安倍首相を写真で紹介。

#### ●毎日

- ・13日夕刊

4面ベタ「首相『後半国会 身引き締める』」「桜を見る会」\*首相の写真

#### ●産経

- ・13日夕刊

3面（2段）「首相『身を引き締めて』」「新宿御苑で桜を見る会」\*首相の写真

- ・14日朝刊

5面（3段）「一人一人咲き誇る時代に」\*首相の写真

#### ●神戸

- ・13日夕刊

3社短信「首相『後半国会、身引き締める』」

紙面を見ると、この時点では各紙（朝日、日経除く）とも何の疑問も持たずに取材、報道している。毎年の恒例行事取材の域を出なかったのだろう。だが、浮上した問題の根深さを考えると、メディアはなぜこの問題に気づかなかったのか。そう問われても仕方のない旧態依然の報道姿勢といえる。

### 2-3 安倍首相とゴルフ

時の首相がゴルフをすると、新聞やテレビは決まって報道する。ゴルフ好きの安倍首相になってからは、頻度が高いのは言うまでもない。しかし、ゴルフに興じる首相の報道は読者に必要な情報なのだろうか。誰のために報道しているのか、改めて振り返る必要があるのではないだろうか。

もちろん、警戒を兼ねて取材するのは当然である。だが、さして伝える内容がなければ、その都度取り上げなくてもよいのではないか。些細なことではあるが、報道の在り方をあらためて問いたくなるほど、安倍首相のゴルフ報道は多い。

安倍首相が休日のゴルフを楽しむたびに、写真入りで伝えられる。2018年8月以降をみても4回ほどある。9月1日朝刊では、ともにゴルフを楽しんだ日本財団の笹川陽平氏が公開したブログの写真（別荘での団らん）を朝日、読売、毎日、産経が伝えている。

・ 8月17日朝刊

●朝日

「首相動静」での紹介のみ。記事はなし

・ 9月1日朝刊

4面短信「『首相の夏休み』写真を公開」

●読売

4面（ベタ）「首相がゴルフ 英気を養う」写真は安倍首相のショット姿

\*本記「(安倍首相は) 自民党総裁選に向け、英気を養った」

・ 9月1日朝刊

4面（2段）「総裁選前に一息？」「日本財団笹川氏公開」

●毎日

5面へそ（3段）「夏休みゴルフ みんな『総理』『首相『気持ちよかった』」

\*本記「麻生太郎副総理らとゴルフを楽しんだ」Pは4人

・9月1日朝刊

5面（3段）「歴代4首相 別荘の夜」「日本財団笹川氏ブログで公開」

\*本記「今年は岸田政調会長らも加わって談笑する様子が写されている」

### ●産経

5面（3段）ワッペン「自民党総裁選2018」「首相、静養中でも着々」

\*本記「首相は森、小泉、麻生の3人の元首相らとゴルフを楽しみ」

\*写真は小泉元首相ら4人のグリーン上の姿

・20日朝刊

5面（3段）「首相『安定している』…夏休みゴルフ満喫」

・9月1日朝刊

5面カタ（3段）「首相の夏休み 笑顔並んだ2日間」\*写真2枚

\*本記「夏休み中にリラックスした安倍首相の表情がうかがえる」

### ●日経

4面左下（3段）「首相、2か月半ぶりゴルフ」

\*本記「首相は約2か月半ぶりに趣味のゴルフを楽しんだ」

\*写真は小泉元首相ら4人のグリーン上の姿

・20日朝刊

2面（2段）「首相、連日のゴルフ」「経団連名誉会長らと」

### ●神戸

3面ベタ「夏休み中の首相 森氏らとゴルフ」

\*本記「首相は森、小泉、麻生の3人の元首相らとゴルフを楽しんだ」

「（2か月半ぶりは）西日本豪雨の災害対応などを優先し、控えていたとみられる」\*写真は小泉元首相ら4人のグリーン上の姿

・9月2日朝刊

4面ベタ「歴代首相4人 笑顔でゴルフ」「笹川氏、ブログで公開」

\*「写真では、ともにリラックスした笑顔を見せた」

・2019年5月19日朝刊

●読売

4面ベタ「安倍首相がゴルフ」

\*「トランプ大統領とするゴルフの練習を兼ねたとみられる」「リラックスした様子だった」

・7月26日朝刊

4面(2段)「首相 夏休み初のゴルフ」

\*「つかの間の休暇でリラックスした様子だった」

●毎日

2面(4段)「トランプ氏へ おもてなしプレーに備え」「首相がゴルフ」

・7月26日朝刊

5面(3段)「首相 予定通りゴルフ」

\*「政府は短距離弾道ミサイルと確認しているが、予定通りプレーした」

・30日朝刊

2面「問われる危機管理」「首相、発射後にゴルフ」

●産経

5面短信「安倍首相、知人とゴルフ」

\*「リラックスした様子を見せた」「トランプ大統領ともプレーする予定だ」

●日経

5面ベタ「トランプ氏を迎える準備?」「首相、先月に続きゴルフ」

・7月26日朝刊

4面(3段)「『飛翔体』発射 日本は静観」「首相『安保に影響なし』」

\*休暇中のゴルフ場で北朝鮮問題を取材。

●神戸

2面短信「首相、知人とゴルフ」

2018年の夏休み中のゴルフについて、朝日は「首相動静」で伝えたのみで記事はない。それ以外の新聞は従前通り、プレー中の写真を使って報じた。内容

を読み比べると、短い記事の中にも、ゴルフ中の安倍首相をどうとらえ、報道したかが分かる。

いずれにしろ、首相のゴルフ報道は「桜を見る会」同様、いつも通りの行事として扱っている。警戒を兼ねた取材は欠かせないとしても、報道する中身がなければ見送ってもいいのではないだろうか。読者にとっても必要な情報ではないだろう。にもかかわらず各紙は「英気を養った」「リラックスした様子だった」などと常とう文句で紹介する。これでは結果的に、安倍首相のイメージアップにつながるだけではないか。ゴルフ報道を通してでも、「安倍政治」をめぐる新聞各紙の報道の違いをうかがい知ることができる。

#### 2-4 トランプ氏来日、大相撲観戦

2019年5月25日、トランプ米大統領夫妻が国賓として来日した。新天皇、皇后両陛下に最初に招待された国賓である。そのもてなしぶりを各紙はどう伝えたか。このニュース報道からも、各紙の「安倍政治」へのスタンスを比較する。

いうまでもなく、世界の首脳の中で、トランプ氏と最も親密な関係にあるとされているのが安倍首相である。特等席での大相撲観戦や、新天皇、皇后両陛下との歓談予定など、来日前から日本政府の歓待ぶりが報道され、「手厚すぎる」といった疑問の声も上がっていた。そうした中、来日後の報道はどうだったか。5月27日からの大相撲観戦を伝えた紙面を読み比べる。

#### ●朝日

1 面右下（2段）「厳戒『トランプ接待場所』」＊写真（2段）

＊本記「日本側は一、トランプ夫妻のために升席を取り払って特別にソファを設置」「異例のトランプ接待場所となった」

1 社カタ「トランプ氏来場 国技館騒然」「升席に椅子■座布団投げ禁止」「総立ちでスマホ」「自販機も『休場』」

＊前文「来場者や相撲関係者から歓待と不満がないまぜになった声が上がった」

・28日朝刊

社説（1本）「もてなし外交の限界」「対米追従より価値の基軸を」「共同文書

の発表なく」「選挙を意識し封印か」「イラン訪問が試金石」

●読売

4面「トランプ氏 朝乃山に大統領杯」「首相とゴルフ 炉端焼きも」\*写真  
3面「トランプ氏全力歓待」「安倍首相 日米同盟『強固』アピール」「首相  
際立つ親密さ」「直接会談『最多』11回」

\*前文「日本政府は両首脳の個人的な関係をさらに深めようと、一米国側の  
要望を最大限取り入れた」\*写真2枚（ゴルフ、ツーショット）

1社カタ『『レイワ』土俵外交』『トランプ氏観戦』『厳戒態勢 升席にソファ』  
\*不満、クレームの声を上げた記事はなし

・28日朝刊

2面カタ「米、対北・イラン『様子見』」「トランプ氏が強調」「日本が一番好き」  
「文化素晴らしい」「トランプ氏、厚遇に上機嫌」

社説（1本）「日米首脳会談」「多国間協調を主導する同盟に」「貿易問題で無  
用な対立避けたい」

●毎日

1面トップ「首相から接待漬け」「ゴルフ、大相撲、炉端焼き」\*写真（2段）

2面ナカ「首相 露骨な蜜月」「終日おもてなし 野党『やり過ぎ』」

スポーツ面（4段）「スモー・グランド・チャンピオンに大統領杯」\*写真

1社トップ「厳戒 楽日の国技館」「検査に列 入館1時間待ち」「観戦『まるで政治利用』」

\*「貴賓席は相撲好きだった昭和天皇が土俵近くを希望したが、警備上の理由で2階に設けられたのに」「相撲の政治利用のような印象を受けた」

・27日夕刊

2社「トランプ大統領ほぼ観光客」「米メディア」

・28日朝刊

社説「米大統領への特別待遇」「長期の国益にかなうのか」「選挙を巡る取引で  
は」「『米国頼み』から脱却を」

●産経

1面トップ「日米、韓国への懸念共有」「貿易交渉『参院選待っつ』」「きょう首脳会談」\*写真(2.5段)優勝杯授与

3面ヘソ大「令和初の国賓 ゴルフ、相撲観戦、炉端焼き堪能」「トランプ氏『実り多い日』」\*P2枚(ゴルフ、炉端焼き)

\*本記「相撲をずっと見たかった。本当に素晴らしかった」

1社トップ(半分)「熱狂『トランプ場所』」「厳戒の国技館 総立ちでスマホ」「大統領杯 朝乃山『重いけどうれしかった』」

\*「異例づくめの『トランプ場所』になった。一部の観客から『何しに来た』などの声も飛んだが、目立ったトラブルは発生しなかった」

●28日朝刊

2面社説(主張)「日米首脳会談」「『拉致』解決へ結束示した」

5面「トランプ氏厚遇を批判」「野党、予算委決まらず焦り」「大変有意義な訪日」「与党は高く評価」

●29日朝刊

5面「首相流おもてなし外交の舞台裏」「トランプ氏『最高の一日』」「スコアは国家機密」「ひと目見ようと大混雑」「やり過ぎ批判あるが」

\*「批判の声も上がった。ただ、同盟国の首脳と多くの時間を共有し、緊密な関係を構築することは日本の国益に資するはずだ」

●日経

1面ヘソ(3段)「トランプ氏 日本満喫」「ゴルフ、大相撲、炉端焼き」

\*写真(3段)

2面ナカ「日米蜜月 ゴルフで構築」「『シンゾウ・ドナルド』の恒例に」

\*前文「長く一緒に時間を過ごす首脳関係はいまの日米関係の基盤になっている」

2社カタ「トランプ氏に観客総立ち」「大相撲千秋楽」「表彰状読み『レイワウン』に歓声」

\*前文「観客からは拍手と歓声上がり、大きな盛り上がりを見せた」

・28日朝刊

4面「ゴルフ中2人で自撮り」「インスタでストーリー」

・29日朝刊

社説「誰が首脳でも続く日米同盟に」

●神戸

1面「トランプ氏 大統領杯授与 大相撲」

\*写真2枚（優勝杯授与、炉端焼き）

\*本記「個人的な親密さを内外に示した」

1社トップ(半分)「型破り相撲観戦 警備に100席」「トランプ氏笑顔、親方苦笑」

\*前文「市民からは、不満やあきれられる声も漏れた」

ベタ「ゴルフから夕食会まで丸一日共に」

\*識者「過剰なへつらい」

1社トップ「大統領は、ほぼ観光客」「米紙、厚遇ぶりを皮肉」

・28日朝刊

社説「日米首脳会談」「親密さの裏で認識の溝も」

トランプ大統領夫妻の大相撲観戦をどうとらえ、伝えたか。安倍首相のもてなしぶりについてはどうだったか。さらには大統領夫妻を迎えた国技館の観客や識者の声はどうだったか。いずれについても、各紙の報道の違いは歴然としている。

27、28日の紙面を比較するだけでも、扱い、伝え方が大きく異なっているのが読みとれる。

同じニュースであっても、扱いだけでなく、見出しのつけ方、記事の書き方まで細かく読み比べると、違いが浮き彫りになる。トランプ米大統領へのもてなしぶりを通して、安倍政治に対する各紙の向き合い方が見えてくる。

例えば、5月27日朝刊で、朝日は本記で「日本側は一、トランプ夫妻のために升席を取り払って特別にソファを設置」「異例のトランプ接待場所となった」とし、社会面の前文では「来場者や相撲関係者から歓待と不満がないまぜになっ



た声が上がった」と書いた。毎日では社会面で「観戦『まるで政治利用』」の見出しとともに、記事では「貴賓席は相撲好きだった昭和天皇が土俵近くを希望したが、警備上の理由で2階に設けられたのに」「相撲の政治利用のような印象を受けた」と報じた。両紙とも、安倍首相のもてなしが度を越しているのではないか、と伝えている。

一方、読売は3面で「安倍首相 日米同盟『強固』アピール」「首相 際立つ親密さ」「直接会談『最多』11回」と大きな見出しを取り、前文で「日本政府は両首脳の個人的な関係をさらに深めようと、一米国側の要望を最大限取り入れた」と書いた。産経は29日朝刊で「首相流おもてなし外交の舞台裏」「トランプ氏『最高の一日』」との見出しで「批判の声も上がった。ただ、同盟国の首脳と多くの時間を共有し、緊密な関係を構築することは日本の国益に資するはずだ」と、今回の歓待、蜜月ぶりを評価している。日経はやや抑え気味だが、読売と産経の報道姿勢に近い。神戸は朝日、毎日同様、今回のもてなしぶりを批判的に書いている。

同じニュース報道であっても、読者は特定の新聞を通してニュースを知る。各紙の報道スタンスの違いを知らなくても、手に取った新聞の報じ方を通してニュースの内容を理解することになる。批判的にニュースを読み解く力を持つ読者は別にして、多くの読者はその人が読む新聞の報道スタンスや論調の影響を受けたままニュース内容を理解するのではないだろうか。ニュースを読み解くリテラシーが求められていると思えてならない。

## 2-5 安倍首相外遊

国際会議や首脳会談などに向けて首相が東京を飛び立つ際の模様は、新聞、テレビとも毎回同じように報道している。専用機のタラップの上から手を振る首相夫妻の姿を写真入りで紹介する、いつもながらの報道である。9月、ニューヨークの国連総会に向けて旅立った際も、またバンコクでのASEAN首脳会議に向かった際も、機上前の首相夫妻を写真入りで紹介した新聞は多い。今回も読売と日経、産経、神戸が報道した。首相が出発したことを伝える記事はニュースとして必要だが、仲良く手を振る首相夫妻のいつもながらの写真は読

者に必要な情報なのだろうか。ゴルフ同様、懐疑の目で見えてしまう。そんな視点で各紙紙面を読み比べてみた。

<国連総会へ> (9月24日朝刊)

●朝日

3面短信「首相、NY に向け出発」

●読売

2面カタ「北・中東情勢の連携焦点」「首相、国連総会に出発」\* P 2段 (夫妻)

●毎日

2面カタ「日米首脳25日会談」「圧力に日本譲歩鮮明」「貿易協定署名方針」「米イラン サウジ攻撃で遠のく対話」「日本の仲介 超難題」

\* サイド記事に合わせて首相の NY に向けた出発を報道した。

●産経

5面 (2段)「日米ウィンウィン」「首相、NY 向け出発」\* 記事のみ

●日経

2面カタ「日米貿易相互利益に」「首相訪米 イラン首脳とも会談へ」

\* P 2段 (夫妻)

●神戸

・25日夕刊

1面カタ「首相、日朝会談実現に意欲」「国連演説、拉致解決向け」

< ASEAN 首脳会議へ> (11月4日朝刊)

●朝日

3面短信 (搭乗機ボヤの記事の中で首相のタイ到着を伝えた) 記事のみ

●読売

2面 (2d)「首相『開かれた海洋守る』」「文大統領と握手」

\* 写真2枚 (手を振る安倍首相夫妻、文大統領と握手する夫妻)

●毎日

2面ベタ「ASEAN 会議 首相がタイ到着」「文大統領と握手」記事のみ

●産経

2面(2d)「首相、バンコク入り」\*夫妻写真

●日経

2面(3d)「南シナ海『平和的解決を』」「首相バンコク着」「ASEAN 会議へ」「日韓首脳が握手」\*写真は空港に着いた安倍首相夫妻

●神戸

2面(2d)「首相が ASEAN 出席」「きょう首脳会議」「文大統領とあいさつ」\*写真はバンコクに到着した安倍首相夫妻

比較してわかるように、ほとんどの新聞が出発か現地到着時の様子を首相夫妻の写真入りで報道している。一方、写真はなく、短信やベタ記事で小さく扱ったのは朝日と毎日だった。とりわけ朝日はスルー状態といってもよい。伝えるべき内容がなければ必要なしとの判断からであろう。

## 2-6 街頭演説とヤジ

最近の選挙戦では、安倍首相や閣僚級が街頭演説中に飛んできたヤジに対して厳しく対応する動きが目立っている。先の東京都議選で演説中の安倍首相が批判の声を上げた聴衆に対し「こんな人たちに負けるわけにはいかない」と述べ、問題視されたこともあった。そして7月の参院選、8月の埼玉県知事選でも同じようなトラブルがあり、ヤジを飛ばした市民が排除された。いずれも「選挙の自由妨害」「犯罪予防阻止」が理由のようである。これまでの街頭演説の現場では、あまり見かけなかった光景である。

7月の参院選では、札幌での街頭演説中に聴衆が排除された。全国紙では朝日が先駆けて報道し、翌日、他紙が追随した。8月のケースは埼玉県知事選で柴山文科相(当時)が応援演説中、大学入試改革反対を訴えた学生に対して、警官が取り囲み排除するという騒ぎになった。

以下、当時の各紙の報道を比較する。6紙のうち読売はいずれの出来事も取り上げていない。

●朝日

・7月17日朝刊

1 社カタ(3段)「首相にヤジ 取り押さえ」「道警、演説現場から市民排除」「政治的中立 疑われる行為」

\* 前文「道警は取材に対して『トラブル防止と、公選法の『選挙の自由妨害』違反になる恐れがある事案について、警察官が声かけしたと説明」

● 19日朝刊

2 社(3段)「首相にヤジ 警官が囲む 大津」「男性を会場端に押しやる」

● 毎日

● 18日朝刊

1 社(3段)「首相にヤジ 聴衆排除」「北海道警 『過剰警備』の指摘」

● 20日朝刊

社説「北海道警のヤジ排除」「政治的中立性が疑われる」

● 産経

● 18日朝刊

5 面(3段)「首相演説にやじ 聴衆排除」「玉木氏が批判『声上げられなくなる』」

● 日経

● 18日朝刊

1 社ベタ「首相演説にやじ 道警が聴衆排除」「札幌駅前」

● 神戸

● 18日朝刊

2 社(2段)「首相にヤジ 聴衆を排除」「北海道警『犯罪予防措置』」

● 21日朝刊

3 面ベタ「首相締めめの演説 応援とヤジ交錯 東京・秋葉原」

● 8月27日夕刊

● 朝日

1 社(2段)「文科相に抗議 男性『排除』か」「応援演説中 警官ら取り囲む」

\* 柴山文科相の発言「通りがかりでヤジを発するのは、権利として保障されているとは言えないのではないか」

● 28日朝刊

3社（3段）「文科相『大声出す権利、保障されない』」「演説に抗議の大学生『排除』騒ぎ」

・29日朝刊

社説「文科相発言」「異論排除を助長するな」

●毎日

・28日朝刊

3社（3d）「『大声の権利保障されぬ』」「埼玉知事選の演説でヤジ」

## 2-7 歴代最長政権

「安倍政治」をめぐる報道比較の最後に、11月20日に達成した「歴代最長政権」を取り上げる。一部新聞では20日以前から報道していたが、ここでは達成当日の20日紙面（産経だけ18日含む）を中心に読み比べる。扱いと見出しをみるだけでも、安倍長期政権への各紙のとらえ方、伝え方がわかる。毎日是他紙に比べて抑えた扱いになっている。

社説では、各紙とも長期政権の緩みとおごりについて共通して触れている。全体的には、朝日と毎日が「弊害の方が目立つ」「他にいないのか」と批判的に書き、読売と産経は「政策で結果を」「難局に当たれ」と政権継続を望む報じ方になっている。そうした対極化は社説でより鮮明に表れる。各紙社説比較の\*印で紹介した「記事内容の一部抜粋」を読み比べるだけで分かる。

「安倍政治」を、新聞各紙がどう評価しているか、を見るうえでの格好のテーマといえる。

・11月20日朝刊

●朝日

1面（3段）「安倍首相 在職歴代最長」「通算2887日」「アベノミクス・安政法制…」

2面（時時刻刻）「最長政権 陰る足もと」「支持率安定 不祥事にも強気」「好調な経済 選挙で成果」「『安倍1強』任期は残り2年弱」「党内の異論じわり表出」

4面「桂太郎さん どんな人」「安倍首相が在職最長記録更新 同郷の元首相」

「日英同盟・日露戦争後に退陣■調整型『ニコポン宰相』」「安倍首相と対照」  
関連「ポスト安倍候補、長期政権評価」「意欲や課題語る」

●読売

1面カタ「安倍首相 在職最長に」「きょう通算2887日」

連載①「最長政権の断面」「改憲へ『政治技術』駆使」

4面連載続き「菅氏の危機管理統び」「相次ぐ閣僚辞任 失点」

カタ「野党『史上最長』を批判」「立民・福山氏『レガシーない政権』」

関連『「ポスト安倍」聞いているいない』「二階氏、首相4選改めて支持」

●毎日

1面（2段）「首相在職2887日最長」

2面「記者コラム」「安倍家の勝ち越しで」

●産経

・18日朝刊

2面「首相、20日で在職日数歴代1位に」「改憲にじむ覚悟」「総裁任期あと2年『自衛隊論争に終止符』」

\*識者「党の結束重視 求心力保つ」

・20日朝刊

（2段）「自民幹事長『4選支援』」「安倍首相きょう在職1位」

●日経

4面カタ『「ポスト安倍」見えない本命』「首相の通算在任、最長2887日」「過去の長期政権 複数の後継候補」

関連「米CSIS 日本部副部長」「日本の指導力、認識させた」

●神戸

1面カタ「安倍首相 在職歴代最長に」「通算2887日 戦前の桂太郎抜く」

2面『「理想」封印し政権2887日』「失敗教訓に経済最優先」「見えぬレガシー、緩み批判も』「野党『そろそろ散りごろ』』「与党『常におごり自戒』」

1社トップ「最長政権に県内評価二分」「政財界 経済が安定■地方おろそか」  
「市民 実行力ある■ごまかし多い」

\* 識者「胸張れるものではない」

<社説>

・朝日「歴代最長政権」『安定』より際立つ弊害」

\* 「歴史的な成果は心もとなく、一弊害の方が際立ってきたと言わざるを得ない」「長期政権がもたらした弊害は明らかだ」「これほどまでに日本国憲法をないがしろにした政権は、過去に例がなかろう」

・読売「歴代最長政権」「惰性を戒め政策で結果示せ」

\* 「景気を回復軌道に乗せた」「トランプ米大統領とも信頼関係を築いた」「経済政策や外交の実績が国民の支持につながったのだろう」「憂慮されるのは、一ほころびが目立つことだ」「長期政権の緩みやおごりの表れといえよう」

・毎日「安倍首相が史上最長に」『他にいない』はいつまで」

\* 「人口減少問題といった中長期的課題を重視してきたとは言えない」「支持しない人は敵とみなして批判に耳を傾けず、支持する人は味方扱いで優遇してきたのではないか」「おごりを捨て、内政、外交の厳しい検証が必要だ」

・産経「首相在職1位」「緊張感保ち難局に当たれ」

\* 「長期政権が日本の政治を安定させ、外交を有利に導いてきたことは間違いない」「記録の更新は続くだろう」「一方で在職期間の長さが、首相の評価を定めるものではない」「長期政権の緩みが出ているのは極めて残念だ」

・日経「最長政権に恥じない改革の総仕上げを」

\* 「国際社会で日本の存在感を高めた」「財政健全化への取り組みは遅れており、首相は改革の実現に指導力を」「社会保障制度の抜本改革も腰が定まらない」「最近、長期政権の慢心や緩みを象徴するような出来事が相次いだ」

・神戸（21日）「歴代最長政権」『1強政治』の弊害に向き合え」「『数の力』を何に使った」「消去法による高支持率」

\* 「最長にふさわしい歴史の評価を得られるか。厳しい道のりとなるだろう」

「首相は『数の力』を、国論を二分する政策を押し通すのに使った」「国会を軽んじる首相の態度は、目に余る」

### 3. 世論調査

以上、「安倍政治」をめぐる新聞報道を比較検証した。各紙の違いは改めて指摘するまでもなく、「朝日・毎日」vs「読売・産経」という対極化の報道が進みつつあるのが、今日の日本の新聞事情といえる。そうした日々の新聞報道に触れる国民はどんな影響を受けるのだろうか。報道の傾向と国民の政治意識との関係を探るのは、困難を極める作業となるが、多少なりともその関係性を探る方法はないものかと、本稿では各紙の世論調査を参考にした。世論調査は無作為に抽出した有権者を対象に電話で回答を求める方式のため、当然ながら電話を受けた人がどのような政治スタンスを持っているか定かではない。

それでも各新聞の報道スタンスと読者への影響度を探るうえで、世論調査の結果から見えてくるものはないだろうか、と考える。その答えを探るため、この2年（2018、19年）の各紙（NHK含む）世論調査を取り上げ、なかでも「安倍政権に対する支持、不支持」を尋ねた結果に注目した。

#### <各紙世論調査2018～19年>安倍内閣支持率推移（\*数字の単位%）

	2018年												
	支持率	45	44	31	31	36	38	38	38	41	40	43	40
<b>朝日</b>	不支持率	33	37	48	52	44	45	43	41	38	40	34	41
	2019年												
	支持率	43	41	41	44	45	45	42	42	48	45	44	38
	不支持率	38	38	37	32	32	33	34	35	31	32	36	42

	2018年												
	支持率	54	54	48	42	39	42	45	50	50	49	53	47
<b>読売</b>	不支持率	35	36	42	50	53	47	44	40	41	41	36	43
	2019年												
	支持率	49	50	54	55	53	53	58	52	53	55	49	48
	不支持率	38	35	31	32	36	36	30	37	35	34	36	40



	2018年												
	支持率	51	44	45	30	31	37	37	37				
毎日	不支持率	39	38	32	49	48	44	41	40				
	2019年												
	支持率	39	41	43	40	50	48	42					
	不支持率	41	37	31	37	28	30	35					

	2018年												
	支持率	52.6	51.0	45.0	38.3	39.8	44.6	42.1	45.6	49.3	47.3	45.9	43.7
産経	不支持率	39.2	39.0	43.8	54.1	48.5	45.6	47.3	44.6	41.8	42.3	42.9	43.4
	2019年												
	支持率	47.9	43.9	42.8	47.9	50.7	47.3	51.7	46.6	51.7	51.1	45.1	43.2
	不支持率	39.2	42.9	42.7	36.7	34.9	36.5	33.3	38.1	31.9	33.0	37.7	40.3

	2018年												
	支持率	55	56	42	43	42	52	45	55	50	48	47	
日経	不支持率	37	36	49	51	53	42	47	39	42	42	44	
	2019年												
	支持率	53	51	48	55	56	52	58	59	57	50	50	
	不支持率	37	42	42	35	36	38	33	33	36	40	41	

	2018年												
神戸	支持率	49.7	48.1	42.4	37.0	38.9	37.0	43.4					
共同	不支持率	36.6	39.0	47.5	52.6	50.3	40.9	41.8					
	2019年												
	支持率	43.4	50.5	47.6	48.6	50.3	53.0	54.1	55.4	53.0	48.7	42.7	
	不支持率	42.3	36.2	44.1	38.2	34.6	34.2	34.5	25.7	34.2	38.1	43.0	

	2018年												
	支持率	46	64	44	38	38	38	44	41	42	42	46	
NHK	不支持率	37	34	38	45	44	44	39	41	39	40	37	
	2019年												
	支持率	43	44	42	47	48	48	45	49	48	47	45	
	不支持率	35	37	36	35	32	32	33	31	33	35	37	

2018年は「森友・加計問題」で安倍政治が大きく揺らいだ年だった。その影響で支持率は各紙とも調査半ばから下落し、支持率より不支持率のほうが上回る時期がしばらく続いた。だが、安倍首相が自民党総裁3選を果たして以降はまた逆転し、支持率が上昇する。その傾向は2019年以降も続き、不支持率が支持率を上回ることなく、むしろその差は広がりつつある。

なかでも、支持率が常に50%前後で推移している読売と日経の世論調査結果に注目したい。朝日や毎日、NHKでは支持率40%台後半が上限だが、読売と日経だけは高い支持率が続いている。これが何を意味するのか、解析は難しい。しかし例えば、調査時に新聞社が社名を名乗ることで有権者の心理に何がしかの影響を与えないだろうか。電話を受けた有権者が新聞社名を聞くことで調査に進んで協力したり、断ったりするケースはないだろうか。調査を依頼された際にそうした心理的な揺れがあるとすれば、回答が多少偏ることも考えられる。

電話を受けた有権者がどの新聞を購読しているのか、また、対極化した今日の新聞報道スタンスをどの程度知っているのか。そうした読者環境もアンケートの回答に影響するのではないだろうか。

そんな推論を抱きながら、支持率・不支持率の推移をみると、読売と日経の50%を超える高い支持率、朝日・毎日・神戸の40%台という支持率が、それぞれの報道スタンスと幾分重なっているように見える。安倍政権寄りの読売、経済専門の日経の読者層から推察すると、両紙の報道スタンスが読者に何らかの影響を及ぼしている可能性はある。各紙の日々の報道スタンスが有権者の政治意識にも多少なりとも影響しているのではないかと、思えてくる。

ただ、読売同様、安倍政権寄りの報道が目立つ産経の調査では、これが当てはまらない。読売と違って支持率がほとんど40%台にとどまり、朝日とあまり変わらない。これをどう分析すればいいのか。長期的でより詳細な調査が必要となるだろう。

ちなみに、各紙世論調査の回答率をみても。固定電話と携帯電話で多少の差異はあるものの、朝日と読売はおおむね40～50%台で推移している。毎日は固定50～60%台だが、携帯は80%台と飛び抜けて高い。神戸（共同）は逆

に携帯が40%台前半と他紙より低い結果となっている。産経は各調査とも回答率を紙面で掲載していない。

#### 4. まとめ

新聞各紙の報道スタンスと読者の政治意識との関係について、世論調査の結果と照らし合わせて検証するという少々乱暴な方法を選択した。際立つ各紙報道の色合いが読者にどんな影響をもたらしているかを探る狙いである。

例えば、各紙が行った世論調査結果を伝える紙面を読み比べる。

安倍内閣の支持率が下がると、それを見出しに取るのは朝日と毎日、神戸（共同）で、支持率が上がると、読売と産経が見出しに取るという傾向がみられる。一方、支持率が下がった場合は読売と産経が見出しには取らず、他の要因を見出しに取るケースがみられる。逆に、安倍内閣の支持率が上がると、朝日と毎日はそれを見出しに取らない傾向が強い。安倍政治に向き合う各紙のスタンスが、世論調査結果を伝える紙面でも表れているといえる。

ところが、「桜を見る会」の私物化が問題視された11月の世論調査では、読売・産経とも支持率が下がったことを見出しに取り掲載した。両紙とも前回調査に比べ「6ポイント減」と1面などで伝えた。ここ最近の世論調査を伝える紙面ではあまり見られなかったことである。

朝日は、安倍内閣支持率が前回より1ポイント下がったものの、見出しに取っていない。それより「桜を見る会」問題をめぐる安倍首相の説明に「納得できない」と答えた人が「68%」に上るとの結果を1面で伝えた。1ポイントの支持率減より、首相の説明に国民の多くが「納得できない」とした回答を見出しに取ることで「安倍政治」への不信、批判をさらに強めている。しかし、12月24日朝刊では、1面カタで「安倍内閣不支持42%」「支持38%を逆転」と、3段の見出しを取り、桜を見る会を巡る安倍首相の姿勢をただしている。

各紙紙面の比較検証を通して、社説やコラムに限らず、近年は日々のニュース報道や世論調査の結果を伝える紙面でもどのような切り口で記事を書き、どう伝えるかといった報道スタンスが各紙それぞれで鮮明になりつつある傾向が

強まっている。とりわけ、「安倍政治」にかかわるニュース報道を読み比べると、違いは明確である。

#### **参考資料**

朝日、読売、毎日、産経、日経、神戸の各紙面（2018年、2019年1月～12月24日）